

# 經濟論叢

第158卷 第6号

池上 惇教授記念號

---

献 辞	菊 池 光 造	
相互依存論の構造と特徴	坂 井 昭 夫	1
カントリー・リスクの把握をめぐって	池 永 哲 也	19
インフラストラクチャーと公務労働	重 森 曉	39
人口高齢化と「国民負担率」	成 瀬 龍 夫	61
内発型発展と産業文化	鈴 木 茂	79
経済学における固有価値と コミュニケーション	二 宮 厚 美	104
四日市臨海工業地帯の誕生	岡 田 知 弘	121
環境制御と行財政システム	植 田 和 弘	145

池上 惇 教授 略歴・著作目録

---

平成8年12月

京 都 大 学 経 済 学 會

## 献 辞

池上惇先生は、1996年8月20日に63歳の誕生日を迎えられ、1997年3月31日をもって本学を定年退官されることになりました。

先生は、1956年3月に京都大学経済学部を卒業され、京都大学大学院経済学研究科博士課程での学業を終えた後、京都大学経済学部助手、助教授を経て、1977年から財政学講座担任の教授として教育・研究活動に尽力してこられました。

先生は、一貫して財政民主主義論の発展に心血を注いでこられました。市民革命期の租税協賛権の思想やその後の社会権の思想を受け継ぎつつ、今日「政府の失敗」と呼ばれる公共部門の現実をふまえて政府からの自由権に着目し、財政民主主義の担い手とその発達過程およびそのための社会的条件を理論化した『財政学——現代財政システムの総合的解明——』（1990年）は、いわば池上財政学の到達点を示すものであり、現代財政民主主義論の新しい局面を切り開いた業績として高く評価されております。

しかし、先生の業績はそれだけではなく、アメリカ資本主義論、国家論、地方自治論、教育論、福祉論、情報化社会論、そして近年では文化経済学にまで及び、数々の新しい概念の提示や問題提起を行って開拓者的な研究を展開してこられました。これは先生が大学教授として狭い意味での専門分野の発展に貢献してきただけでなく、その時々々の日本社会が直面し、研究者が展望を示さねばならぬ現実的な課題に応えようと全力を傾注してこられた道程を示すものといえるでしょう。この過程で、数多くのすぐれた研究者を育成してこられたことも、先生の大きな功績であります。

また、1978年1月より86年1月までの間に2度にわたり京都大学評議員、86年1月より88年1月まで京都大学経済学部長・同大学院経済学研究科長として重責を担われ、経済学部及び経済学研究科の今日における新たな発展の礎を築

く上で、決定的に重要な役割を果たされました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功勞に対する敬意と感謝の気持ちをこめて、『経済論叢』の本号を記念号として編集いたしました。先生のご指導を受けられた方々から寄せられた論文を編んで本号を先生にお贈りできますことは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が今後ますますご健康で、学界のため、また広く社会のため、ご活躍下さいますことを、心からお祈りいたします。

1996年11月5日

京都大学経済学部長 菊池光造